

Weekly report



株式会社 ミンカブソリューションサービス
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望 = ドル円は底堅い動きも介入に警戒

[5月6日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		4月29日～5月2日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	157.99	160.17(29)	153.04(1)	155.42	-2.91
ユーロ・ドル	1.0689	1.0735(30)	1.0650(1)	1.0721	+0.0028

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	38,236.07	+301.31	日本10年債利回り	0.905	+0.014
ダウ平均株価	37,903.29	-336.37	米10年債利回り	4.628	-0.035

=====

<来週の主要経済統計等>

- 6日 中国4月財新サービス業PMI
独4月製造業PMI 確報値、ユーロ圏4月製造業PMI 確報値
ユーロ圏3月生産者物価指数
- 7日 豪中銀(RBA)政策金利
スイス4月雇用統計
独3月製造業受注指数、独3月貿易収支
ユーロ圏3月小売売上高
カナダ4月Ivey購買部協会指数
- 8日 独3月鉱工業生産指数
- 9日 中国4月貿易収支
日本3月景気動向指数速報値
英中銀(BOE)政策金利
米新規失業保険申請件数
- 10日 日本3月勤労者世帯家計調査、日本3月経常収支
英第1四半期GDP速報値
英3月鉱工業生産指数、英3月製造業生産指数、英3月貿易収支
カナダ4月雇用統計
米5月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】米国の景気の強さにより、政策金利の高止まりや利下げ後ずれ観測が高まると、米長期金利の上昇やドル買いにつながる。ドル円は日本の当局によるドル売り円買い介入への警戒感がドル円の上値を抑える中、高値圏で緩やかに上値を追う展開が見込まれるとした。

【ドル円は高値圏で荒れた動き】

4月26日の日銀金融政策決定会合の結果発表では、金融政策に変更はなかった。植田総裁の記者会見で、「当面、緩和的な金融環境が継続する」「基調的な物価に円安は今のところ大きな影響でない」と述べた。

円安けん制もインフレを警戒する姿勢も見られなかったことで、円売りの動きに拍車をかけた。26日のドル円は日銀会合の結果発表前の155円台半ばから157円台半ばまで大きく上値を伸ばした。この日の海外市場では158円台前半まで上昇した。

日本市場が休場となる週明けの4月29日にドル円はドル買い円売りが進んで一時160.17まで上昇した。その後はドル売り円買い介入とみられる動きなどから155円近辺まで急落した。その後いったん157円台まで戻したものの、再び売りに押され

て154円台半ばまで下落した。

神田財務官は29日に「介入に関してはノーコメント」「異常ともいえる激しい変動が国民経済にもたらす悪影響には看過しがたいものがある」「したがって引き続き必要に応じて対応をしていきたい」と述べた。また、介入に関しては「24時間365日対応できる」と常に準備が整っていることを明らかにした。市場関係者の間では、日銀の当座預金の変動などから5兆円規模の為替介入があったとの見方が広がっている。

30日の朝に156円台前半で迎えると、その後はもみ合いながら緩やかに上昇して157円台後半まで上値を伸ばした。この日発表の第1四半期の米雇用コスト指数が市場予想を上回り、賃金インフレの根強さが意識されて米長期金利が上昇するとともにドル買いの動きにつながった。5月1日にはFOMCまでは157円台での推移となった。

5月1日の米連邦公開市場委員会（FOMC）の結果発表では政策金利は予想通りに据え置きとなった。声明文では、「最近数か月はインフレ抑制の進展に向けての進展がなかった」と指摘があった。パウエル議長の記者会見では、「インフレは想定を上回る水準で推移している」「利下げ可能と判断できるまでまだ時間がかかる」「次の一手は利上げである可能性は低い」などと述べた。

市場の想定ほどはタカ派的ではないとの見方は広がった。ドル円はパウエル議長の記者会見後に157円台後半から157円近辺まで軟化した。その後、大きなドル売り円買いの動きを受けて、ドル円は153.04近辺まで急落した。介入の可能性が指摘されている。その後、ドル円は156円台まで戻り歩調で推移している。

米国では景気が堅調で、インフレの鈍化ペースが減速している。こうした動きから米10年債利回りは4.5～4.7%台でもみ合いながら緩やかに上昇しており、ドルは堅調な動きを見せている。一方で、日銀は円安進行をけん制することなく、緩和的な金融政策が維持されて円売りの動きに傾きやすく、ドル円は緩やかに上値を追う展開が続く。実際に介入とみられる動きもあり、引き続き介入警戒感が上値を抑えて、上昇ペースは緩やかなものとなる。なお、介入が入った際は大きく値を崩す可能性がある。ドル円の目先の予想レンジは、152.00～161.00円。

日米の経済指標やイベントとしては、9日に日本3月景気動向指数速報値、米新規失業保険申請件数、10日に日本3月勤労者世帯家計調査、日本3月経常収支、米5月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルはレンジ内で一進一退の動きか】

ユーロドルは4月26日に1.07台半ばまで戻したものの、その後は1.0700ドルを挟んでもみ合いが続いている。4月30日には、独第1四半期GDP速報値、ユーロ圏第1四半期GDP速報値、ユーロ圏4月消費者物価指数速報値（コア前年比）の上振れなどでユーロ買いに傾く場面も見られた。その後、第1四半期の米雇用コスト指数の強さなどからユーロ売りドル買いの動きを見せた。5月1日はFOMCやパウエル議長の会見後は一時ユーロ買いドル売りに傾いた。

経済指標やイベントなどに振り回される中、1.0700ドルを挟んでの振幅が続いている。ユーロドルは目立った方向感が出にくい中、日替わりで高下している。経済指標などの動きに左右されやすい中、ユーロドルは最近のレンジを中心とする一進一退の動きが続くとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0550～1.0850ドル。

4月29日にポンドドルは1.2570近辺まで上昇した。その後は上昇一服となり、1.2500ドル近辺でもみ合いとなっている。1.2500ドル割れでは底固い動きを見せているものの、200日移動平均線が抵抗として意識されて上値を抑えられている。こうした中、ポンドドルも目先はもみ合いで推移するとみられる。9日の英金融政策委員会（MPC）では政策金利は据え置きの見通し。利上げは8～9月頃とみられている。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.2300～1.2700ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、6日に中国4月財新サービス業PMI、独4月製造業PMI確報値、ユーロ圏4月製造業PMI確報値、ユーロ圏3月生産者物価指数、7日に豪中銀（RBA）政策金利、独3月製造業受注指数、独3月貿易収支、ユーロ圏3月小売売上高、8日に独3月鉱工業生産指数、9日に中国4月貿易収支、英中銀（BOE）政策金利、10日に英第1四半期GDP速報値、英3月鉱工業生産指数、英3月貿易収支、カナダ4月雇用統計などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。